

第5回 活力ある経済社会を目指す検討小委員会

【日時】平成19年12月7日（金）10:00～12:00

【場所】博多スターレーン 1階 Bホール

【事務局】 皆さん、おはようございます。定刻になりましたので、ただいまから九州圏広域地方計画プレ協議会、活力ある経済社会を目指す検討小委員会を開催させていただきます。

本日はお忙しい中、当委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は、本日の司会を務めます九州地方整備局 企画部 広域計画課の佐々木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、まず本日の会議資料を確認させていただきます。お手元にクリップどめで、議事次第が2枚、A4のとじ込みが1枚でございます。それから資料1、前回の小委員会の主なご意見。資料2-1が中間レポートの構成図。資料2-2が中間レポート（案）イメージ、A3横でございます。資料2-3が中間レポートの（案）でございます。そして、参考資料1、前回の小委員会の議事録でございます。参考資料2は、中間レポート（案）の参考資料集となっております。それから、参考資料3は、意見等の対応状況でございます。以上でございます。落丁等ございましたら事務局のほうまでお申しつけください。

それでは、本日のご出席の委員のご紹介をさせていただきたいと思っております。

座長の外井先生、青木委員、鳥丸委員、根岸委員、深川委員、星野委員、アドバイザーの矢田先生です。

なお、両角委員、山中委員は都合により欠席されております。

プレ協議会関係機関からの出席者につきましては、お手元に配付しております出席者名簿をもって、紹介にかえさせていただきたいと思っております。

それでは早速、本日の議事に移らせて頂きたいと思っております。ここからの議事の進行等につきましては外井座長にお願いしたいと思います。

それでは外井座長、よろしくお願いいたします。

【外井座長】 おはようございます。

それでは、これから議事に入りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

今日は次第にもありますように議題が3つございます。そのうちの2つ、「(1)第4回検討小委員会における主な意見について」と「(2)検討小委員会中間レポート(案)について」について、それぞれ事務局からの説明をお願いして、後で一括してご意見をいただきます。

では、よろしく願いいたします。

【事務局】 おはようございます。建政部の大井でございます。よろしく願いいたします。

議題(1)(2)について、資料に基づきご説明させていただきます。

資料1をご覧ください。当委員会では、2回目から4回目の3回にわたり8つの論点について、活力ある経済社会を目指すためのご議論をしていただきました。前回においては、論点3、論点4、論点6についてご議論頂いております。それを簡単にまとめたものが資料1になっております。前回の論点3「ものづくり基盤の強化」では、全般的なご指摘をいただきましたが、情報の観点が弱いのではないかと、ものづくり基盤が強化されているもののそれが活用されていない、あるいは教育システムについて地域企業と一体となったものが必要ではないか、若年人材の不足を解消するためには職人文化を大切にしなければならない、またそういった教育も必要、といったご指摘を頂いております。

論点4「観光資源等による魅力創出」では、地域で活躍する人材も必要だが、それをプロモート、プランニングする高度な人材育成も必要であるというご指摘を頂いております。

論点6「持続的な成長を牽引する都市圏の形成」では、都市機能をコンパクト化しなければ、人口減少などの条件下において、活力ある経済は持続できないのではないかと、といったご指摘がございました、また、3つの論点全般的に人材育成ということが必要で、そういった観点をきちんと盛り込んだほうが良いというご指摘も頂きました。

前回の委員会では、この3つの論点のほかに、中間レポートの素案についてのご指摘を頂きました。参考資料3に中間レポート(案)についての意見をまとめてございますが、これにつきましては、議題(2)「検討小委員会中間レポート(案)」でご説明させていただきますので割愛させていただきます。

議題(2)「検討小委員会中間レポート(案)」につきまして、資料2-1、2-2、2-3と、3つご用意しております。資料2-1は、中間レポート(案)の構成図で、目次を体系立てたものでございます。これについて、図を用いて説明したものが資料2-2と

なります。まず資料2-2により、構成と内容を簡単にご説明したうえで、前回いただいたご指摘、あるいは前回から今日に至るまで頂いたご意見等を踏まえたものを中間レポート(案)としてご説明したいと思えます。

資料2-2ですが、中間レポート(案)は3つの章に分けて構成しております。第1章は九州圏における現状と課題、第2章では九州圏の課題への対応をどのように方向づけるのかということ、そして第3章「活力ある経済社会の実現に向けて」では具体的にどのような戦略が考えられるのか、という構成になっております。

委員の皆様には、事務局から事前に送付させて頂きました中間レポート(案)について、ご一読頂いていると思えますがご説明をさせて頂きます。

第1章では九州圏の現状と課題を3つに分けて構成しました。

第1節は「九州圏の圏土構造の位置づけと特徴」、九州はアジアに近く適度に都市機能が分散しているといった点を書いております。

第2節は、昨今の九州圏を取り巻く経済社会情勢の転換について、人口減少が始まっていること、アジアの成長に影響を受けているといったことを書いております。

このような現状を踏まえ、九州圏をめぐる課題にはどのようなものがあるのかを第3節にまとめています。大きく3つに分けております。ひとつに、東アジア等の経済発展に連動した国際競争力を強化する必要があるのではないか。次に、人口減少下という条件のもと、地域の自立的発展を目指していかなければならない、九州圏の活力強化を目指していかなければならないといった課題。また、産業振興を支える交流・連携の推進ということで、アジアに向けた考えを持たなければならぬとともに、九州圏内でも自立的な活力ある社会を構築するための連携が必要といったことを書いております。

第2章は、当委員会でご議論いただいた8つの論点を、先生方や委員の方々から頂きましたご意見を、第1節と第2節にできる限りの記載をいたしました。

第1節は「九州圏の特長を生かした産業振興と競争力の強化」で、九州の経済・産業振興を強化しなければならないということを、4つに分けております。ひとつ目が「産業集積を活かした新たな産業展望」、九州に既にある産業集積を活かしていかなければいけない。ふたつ目が「新産業を核とした産業振興」、将来的に成長が見込まれる産業や教育・研究開発施設等の産学官連携などを有効に活用し、新技術・新産業を創出していく必要があるということを書いております。3つ目は、九州全体で、「ものづくり基盤の強化」をしていかなければならないということを書いております。4つ目は、「地域を支える産業の振興と

安定的な発展」という観点から、地域ブランド化が必要であるということ、戦略的に観光を振興していかなければならないということを書き記述しております。

第1節では、このような九州圏の経済活力をどのように発展させていくかということを書いています。第2節は、その経済・産業を支える人材が活躍できる環境に着目した節にしております。

ひとつ目が「持続的な成長を牽引する都市圏の形成」、人材交流や経済界、企業活動の活性化が必要。都市圏の魅力を強化していかなければならない。知的人材の集積を有効的に活用し、多様な産業を創出できる環境づくりが必要だということを書いております。ふたつ目は「多種多様な人材が集積する産業構造の形成」、海外の人材、あるいは再就職を希望する若者や中高年等の就業支援など、多様な人材の雇用を促進していく必要があるといったことを書いております。3つ目が「産業振興を支える交流・連携機能の充実・強化」、産業を支える交流・連携、ネットワークを形成する必要があること。複合一貫輸送による物流の効率化、手続の迅速化が必要であるということを書いております。

第2章の論点における議論を踏まえ、第3章「活力ある経済社会の実現」を設けました。先生方のご意見を、より具体的にまとめたものと認識しております。まず「成長型、牽引型産業を核とした『産業アイランド』の推進等による競争力の強化」、既にカーアイランド、シリコンアイランドなど、九州ではそういった産業集積が既にあり、加えて青木先生などからご指摘いただいた観光を活用した観光産業の形成の必要性や、静脈物流の必要性などから、エコアイランドを掲げております。例えばエコアイランドですと、環境や省エネルギーの集積拠点の形成等、広域的な静脈物流の推進が必要であり、そういった観点で九州一体とした産業振興が考えられるのではないかと考えております。こういった5つのアイランドのほかに、次世代の産業の牽引力として期待される産業群として、バイオ関連産業や知識財産業やロボット産業などが掲げられるのではないかと考えております。この「1. 産業アイランド」のほかに2から5までの4つ、活力ある経済社会の実現に向けてどういったことが考えられるかをまとめております。ふたつ目が「学術研究都市等の知的産業を核として産学官連携等による産業の高度化の推進」、知的ネットワークを構築することにより、たゆまないイノベーションを促進する必要があること。3つ目、「社会情勢の変化等に対応した地域を支える産業の新たな展開」、九州では、例えば農林業経営は難しい状況にあります。法人経営や集落営農などにより、高付加価値化を目指す必要があります。あるいは建設業の経営基盤の強化が必要といったことを書いております。4つ目に「九州圏の

未来を切り開く人材育成と多様な活躍の場の創出」と位置づけ、国際化や医療・福祉の新たなニーズに対応した次世代を切り開くための多様な人材と、すそ野を広げ活躍の場を創出する環境を形成する必要があることを記述しております。最後に5つ目、「多様な交流・連携を推進するソフト・ハード基盤の整備あるいは活用」、東アジアや国内、あるいは九州圏域内における交流・連携を推進するためにどのようなものが必要か。循環型高速交通体系や情報通信基盤、物流ネットワークの充実を図るとともに、人と人が交流できる基盤を整備する必要があるということを記述しております。

以上、中間レポートの構成に基づいて、内容を簡単にご説明いたしました。続きまして資料2 - 3と参考資料3をご覧くださいながら、前回お示しした素案からの主な変更点をご説明したいと思います。

参考資料3は前回からの変更点を見え消しでお示ししています。3ページの青字部分、20世紀の前半と後半とでアジアと九州の関係が変化していることを具体的に書きました。4ページ、これは星野先生からご指摘をいただきましたが、北部九州と韓国・中国との関係についてより具体的な記述をいたしました。また資料7ページ、いろいろな先生方からご指摘をいただきましたが、情報化の観点が薄いということで記述を増やしております。赤字・青字について、単語や「てにをは」につきましては省略したいと思います。続きまして資料の12ページ、知識財産業についての記述を深川先生などからご指摘いただいて書いております。また情報化の観点は、13ページにも「生活・産業の情報化」ということで1つの見出しをつけて記述しました。15ページ、地域格差の観点が薄いという、鳥丸先生、深川先生、根岸先生からいただいたご指摘を受け、各所にできるだけちりばめながら、15ページにも格差の観点を移しました。

第2章に移りますが、知的産業のことについて、コンテンツ産業は18ページにも記述しております。19ページは、九州経済産業局さんからいただいたものづくり基盤の強化についてのご意見です。また、ものづくりといっても工業的なものだけではなく、伝統工芸なども重要なものづくりだという、青木先生からのご指摘も踏まえて記述をしております。

また20ページ、根岸先生からいただいたトライアル発注についてのご意見につきましても、書き加えております。また鳥丸先生から山村留学、グリーン・ツーリズムについてのご指摘がありましたので、21ページなどに記述しております。また、女性の労働力を活用する観点から情報の場が必要であるという、前回の委員会における山中先生、青木先生のほか、長崎県さんからもいただいた意見を21、22ページにわたって書いております。ポッ

プ・カルチャーについては、深川先生からいただいております、22ページに書いております。23ページは星野先生からのご指摘でございます。24ページは、繰り返しになりますが、情報化が薄かったので記述を追加しております。

前回お示した第3章は、1ページ少々という記述で、あまりにも薄いというご指摘をいただきましたので、アイランドについて、カーアイランドやシリコンアイランドの話を記述し、産学官連携や地域を支える産業はどのような展開が必要なのかという記述もつけ加えております。

今回は、前回の検討小委員会でいただいた意見のほか、意見照会させていただいたところ、たくさんのご意見をいただくことができました。すべてのご意見をそのまま反映できていないところがございますが、事務局では、バランスを見つつ適宜できる限りの修正をしたところです。これらの修正が間違っている、あるいは抜けているところがありましたら、今回のご議論でいただければと思います。

事務局からは以上です。

【外井座長】 ありがとうございます。

ただいま事務局から議題(1)(2)の説明がございましたが、最初の議題(1)前回の委員会における主な意見について、何か落ちているということがございましたらお願いしたいと思います。資料1ですが、網羅されていますでしょうか。

では、これについてはご意見はなしということです。

【事務局】 今回の中間レポートの位置づけについて、若干ご説明をさせていただきます。

資料2-3「おわりに」というところで、この中間レポートがどういうものなのかを記述しております。検討小委員会は、当小委員会のほかに、安全、自立と全部で3つございます。それぞれ中間レポートを作成し、3つの検討小委員会における中間レポートを参考に、全国計画策定後に設置される予定の九州圏広域地方計画協議会の審議における基礎資料となるキックオフレポート、計画原案を作成する予定でございます。したがって、この中間レポートには、すべての九州の課題、すべての対応の方向性、戦略を盛り込んでおらず、活力ある経済社会をどう志向していくかということに着目した中間レポートを作成していただきたいと考えております。

以上です。

【外井座長】 当委員会の結果として、それから、そのほかの小委員会の結果を取りまとめてキックオフレポートをつくるということ、その辺りも考慮して、今から議題(2)の中間レポートのほうに移りたいと思います。この中間レポートは、先ほど事務局からご説明がありましたように、事前に皆様に意見照会を行っており、回答していただいたご意見をもとに修正したものでございます。先ほど説明がありましたように、かなりの部分を取り入れて書いていただいております。第3章は大幅に書きかえられております。

今回の会議は、最終回の取りまとめということで、これまでの流れを大きく変えずに、いただいたご意見がこのレポートの中に反映されているかどうかという観点から、ご意見をいただきたいと思います。また、十分に入っている場合でも、もう1度強調して意見を述べたいという場合は、それでも結構です。

それでは皆様、いかがでしょうか。ご意見等いただければと思います。

【星野委員】 中間レポート修正案は、以前のドラフトに比べ、非常に具体性を持ってわかりやすくなっていると感じます。これを読むと、ほんとうに当初からの一切の内容がすべて網羅されている、よくまとめられていると思います。また、資料2-2は、そのレポートの内容がこの1枚ですべて把握できます。ほんとうにわかりやすくできていると思います。これだけ大変な作業をしていただいたことに感謝いたします。

ひとつだけ追加をお願いしたいのは、これからまさに次世代を牽引すると期待される産業群として、資料2-2にバイオ関連産業、知識財産業、ロボット産業という記述が3つありますが、これが見え消しの資料の27ページでは、次世代の牽引力として期待される産業群として一括して記述をされています。せっかくですからこれらも5つのアイランドと同じぐらいの分量でもう少し詳しく説明していただくと、まさにこれから期待される部分なので、よりよくなるのではないかという追加のお願いです。

【外井座長】 全般的によくできているという話、それから細部のところは参考資料3の27ページ「次世代」、この部分を少し分けてということでしょうか。もう少し詳しい記述をということです。例えば、ここに項目を立てて扱うということでしょうか。

【星野委員】 そうです。1つ1つのアイランドを扱っているように、バイオ関連産業で

何行か、知識財産業で何行かと、もう少し詳しく書いたほうがよいと思います。

【外井座長】 では、そのようによろしく願います。

ほかにございますでしょうか。

【深川委員】 追加の記述を求めるものではございませんが、大変よくできており驚きました。最初はゆっくりしたペースで、最後のほうは着想とアイデアに満ちており、特にアイランドがキーワードになっているのですが、これは技ありだという印象を持ちました。

今後、ブラッシュアップするに当たり、参考意見程度に考えていただいていいと思います。このアイランドというのはすばらしいキーワードで、これを軸に今後の提案や構想を組み立てていますが、アイランドだとほかにも北海道や四国もありますから、それらアイランドと目される地域との差別化を考えられればよいと思います。特にカーアイランドとシリコンアイランドの場合、九州には独自性があると思います。しかし、フードやヒーリング、あるいはエコという点ではほかの地域ももしかしたら手を挙げるかもしれません。それらの地域と九州はどこが違うのかという点を加味するとおもしろいものができるかと期待しています。

アイランドという言葉を使ったことについて、九州はいろいろな地域があり一体感を持たせるという意味では非常にすぐれたキーワードだと思いますが、どちらかという inward きの感じがしますから、アイランドが外に向かって魅力を出し、ぜひトレジャーアイランドとなりますように期待したいと思います。

以上です。

【外井座長】 ありがとうございます。2点ありました。5つのアイランドのうちのフードアイランドとヒーリングアイランド、これらと他地域との差別化を明確に書いたほうがいいのではというご指摘と、先ほどのトレジャーアイランドというのは、これもつけ加えるということでしょうか。

【深川委員】 構想が実現する中で外に向かって魅力を伝えるような何かができるように期待するということです。

【外井座長】 5つのアイランドを外に向かって訴えるということです。ありがとうございました。そのほかにもございますか。

【青木委員】 特に意見や提案ということではありません。一言感想のみを述べさせていただきます。この委員会にかかわらせていただいて、そして最終的にこのような中間レポートが纏められて、本当に嬉しく思います。今までいろいろな委員会にかかわってまいりましたが、このように議論されたことが明白に整理され汲み上げられ、分かりやすく文字と絵で仕上げられるというのがあまりなかったので、本当に素晴らしいと思います。皆様とともに議論できたことを大変幸せに思います。レポートに記されていることが実行されることを期待しています。

【外井座長】 ありがとうございました。

【鳥丸委員】 とてもよくまとまっていて勉強会のテキストとして使えるのではないかと、いうくらいで、私自身もいろいろな委員会の事務局などを務めさせていただいていますが、短い間にこれだけまとめるというのは難しいと感じるくらいであるのに、とてもよくできていると思いました。

感じたことですが、地図の扱いです。一番最初のところ「九州圏の圏土構造の位置づけと特徴」のところ九州地図を持ってこられるときは、離島を含めたものを入れていただきたいと思います。そうすると九州は海だらけになります。鹿児島県だけでも南北600キロメートルですから、相当の海だらけになりますが、やはり九州は海がすごく広いことを、説明は特にいらないと思いますが、示しておく必要があるのではないかと思います。

ヒーリングアイランドの地図には対馬と奄美大島以南が小さく出ています。産業を説明する際の地図はここでの示し方でいいと思いますが、最初の頭出しの地図は、検討をお願いしたいと思います。

それから、最近仕入れた情報です。このレポートの中にインターンシップという言葉が出てきますが、先週、福岡県立戸畑工業高校の校長先生とお話をする機会があり、その中で「デュアルシステムというのをやっています」とおっしゃっていました。「インターンシップと何が違うのですか」と聞くと、理念的に違うそうですが、一番違うのはインターンする期間が長いそうです。高校生が夏休み前に3週間、地元企業の85社ぐらいに分散して

研修をして、その期間の授業については夏休みに補習授業をする。冬休みの前には10日間ぐらい、それで冬休みに補習の授業をするというシステムです。生徒は夕方5時には学校に帰ってくるので、その後部活動ができる。インターンシップよりも期間を長くしたデュアルシステムというのはかなり効果が違う、というお話をしておられました。デュアルシステムという言葉自体があまりポピュラーではないですが、どこか1カ所くらいは「含むデュアルシステム」のような書き方をするといいのではないかと感じました。

また、そういったデュアルシステムを行うことにより学生さんが一生懸命やるだけではなく、教える側の勉強にもつながっています。北九州市内の中小企業の中には5年も6年も新規卒者を採用できない企業もあるらしく、20歳代後半ぐらいの方が工場の中で一番若くて、人に教えたことがない状況にあります。ところが高校生がデュアルシステムやインターンシップで入ってくると、学生のほうも目を輝かせるのですが、一番若い職人さんが初めて指導員になるということで、また一生懸命に勉強をやり直す。インターンシップでは、学びに行く側だけではなく、教える側の勉強にもつながるということでした。これはどこかに入れてほしいという話ではないのですが、いろいろな効果があると思いました。

最後に、今年の6月に6つの省が一緒になって企業立地促進法ができましたが、鹿児島県の取り組みが九州の7県で一番遅れています。おそらく年度内に、47都道府県のうち鹿児島県だけ提案が上がってこないのではないかと状況です。自治体の方々に話を聞くと、テクノポリス法や新産都法、頭脳立地法のように国が投資をしてくれないと、地方では満遍なく産業振興政策を実施するためには、どうしても時間がかかるというお話があります。産業政策は選択と集中ですが、地方では福祉政策のように捉えているところがあり、満遍なく雇用を集めて、満遍なく地域に波及効果がなければいけないと考えているようです。

企業立地促進法は地方から業種を挙げることとなっていますが、地方分権時代に見合ったものに使うにも関わらず、実は地域そのものの態勢ができていないということもあります。これはこの報告書の間接レポートで謳うという以前の大前提として、分権社会で権限がおりてくる時代だということを経営そのものが自覚して、福祉政策と産業政策のメリハリを利かせる必要があるのではということを感じました。

以上でございます。

【外井座長】 ありがとうございます。地図の話から、昨今の企業立地促進法の話まで、かなり幅広いご意見をいただきました。

ほかにございますか。

【根岸委員】 ほかの先生方からも出ましたけれども、私も、短期間でほんとうによくまとめられた、非常によくできていると思っております。

最後に文章でご照会の際に1つ入れていただきました。コミュニティビジネスのところがその関連で、29ページのところになります。

コミュニティビジネスは、今、行政がどんどんスリム化していく中で、また市町村の合併が進んでいく中で、コミュニティの問題を自分たちの問題として考え、そしてお金をしっかり集めて回して、自立を図っていくというコミュニティビジネスが全国的にも広まりつつあります。特に九州は、九州経済産業局さんがほかの地域と比べ、一生懸命やっているとします。そういう公の部分、官の部分が小さくなったら公をだれが担うのかという観点からコミュニティビジネスというものが九州各地で取り組まれて、そして農山村や中心市街地等でコミュニティの再生に寄与しつつある例が少しずつ出始めています。これが大切だということを入れていただいたので、感謝しております。

またインキュベーションですが、北九州のルネサンス構想の評価に挙げられている情報都市化に対して、北九州テレワークセンターというインキュベーション施設があります。新幹線の駅の前にあるインキュベーション施設というのは非常によい。なぜかという、その地域のマーケットだけではなく、大阪や様々なところにビジネスを広げたり、都市の集積を生かした形のビジネスで、外の都市に対してのアクセスがよいということが重要なメリットになっています。新幹線で熊本、鹿児島が繋がると、都市の街中にあるインキュベーション施設はその都市の中だけでなく、外に打って出るチャンスの拠点にもなってくるのではないかと思います。

九州の中でも宮崎県以外は都心にインキュベーション施設が増えてきています。そういうことを踏まえて、都市内、都市の中の集積を生かしたインキュベーションシステムは、今後、ベンチャーの育成の面でも重要になってくるのではないかと思いますので、これを入れていただいてありがとうございます。

ほんとうに全体的によくできたレポートではないかと思いました。以上です。

【外井座長】 ありがとうございます。皆様からお褒めの言葉をいただきましたが、そのほかに何かございませんでしょうか。

一通りいただいたと思います。私のほうから、気になったところを1カ所だけ申し上げます。参考資料の21ページの真ん中あたり、九州観光のブランドの強化という中、ここは産業の振興と強化ということを書いているのですが、その後道路の話が出てきています。これは、もしかしたら環境のほうがよいかもしれないという感がございます。次の第2節で書いたほうがよいことかもしれないということです。要するに、この部分を第2節の一番後ろあたりに書き込んでどうかという感じがいたします。24ページの「情報ネットワーク形成と格差是正」の少し前あたりに書き込んだほうがよいという感じがしました。全体を整理すると、環境というふうに分けると環境とその経済の関係、2つの節に分けて、産業振興と競争力の強化ということと産業と環境整備ということで、これはどのようにお考えでしょうか。

【事務局】 事務局の田中でございます。先生のご指摘、第2節の特徴を活かした産業振興と競争力の強化について、まさに競争力の中の基盤ということで、道路についてもこちらに書かせていただきましたが、第2節のほうでそれらを支えるという形で手段だという、やはり交通は手段ではないかという先生のご指摘とも思いますので、両方に書いたほうがいいのか、もしくはこちらのほうにまとめて整理し直したらいいのか考えさせていただきます。外井座長と後日すり合わせをお願いしたいと思います。それでよろしいでしょうか。

【外井座長】 はい、結構でございます。

【矢田アドバイザー】 3つの委員会をやっていて、こんなに褒められたのは初めてです。大抵は、異論があるようなまとめ方があったのですが、要するに事務局の態勢が軌道に乗ってきているのかなという、大変うれしく思っています。

1点だけ言わせてください。見え消しの参考資料3、「適度に分散する九州圏の都市構造」、外井先生の専門ですが、国土構造というのは国の空間システムで、都市構造というのは都市の中のシステムで、ここでは国土構造が適当と思います。都市が適度に分散する九州圏全体の空間システムです。見え消しの参考資料3の5ページの です。

私はキックオフレポートとかかわる機会が多くなりますので、基本的にこの委員会の、特にアイランド構想などは入れていくのかなと感じながら聞いていました。が、そうは言いながら、キックオフレポートは枚数制限がありますので、この3倍とするわけにはいきません。そのあたりについては、少しエキスをいただきながらまとめていくということでご了解いただきたいと思います。またキックオフレポート作成にあたっては、いずれかの段階で、皆さんに照会してチェックしていただきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

【外井座長】 一通り皆さんご発言いただきましたが、まだ時間がございます。もう少し何かおっしゃりたいことはございませんでしょうか。

それでは、この議題(2)については、委員の先生方からお褒めの言葉が出たということで、次の議題(3)「検討小委員会の今後の運営について」に進めます。事務局からご説明をお願いします。

【事務局】 九州圏広域地方計画推進室の田中でございます。私からは、資料は特に準備してございませんけれども、今後の運営、レポートの取りまとめにつきましてご説明させていただきますと思います。

本日、委員の皆様からいただいたご意見につきましては、事務局にてレポートの加筆修正をさせていただき、関係される委員の皆さん、ご発言いただいた委員の先生と調整させていただきます。その後全体のまとめにつきましては座長の外井委員にご指導いただきながら最終レポートをまとめたいと考えております。まとめましたレポートにつきましては、送付にて委員の皆様方のお手元にお届けしたいと考えております。

こういった進め方でレポートを取りまとめたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

【外井座長】 今日いただいたご意見等を受け、今後は会議形式ではなく個別に各委員と相談しながら進め、最終的な取りまとめは私に任せさせていただくということでございますが、よろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。ではそのようにさせていただきます。

今日の議題はこれで終わります。大変早くスムーズに進行することができました。よ

くできていたということです。

それでは議事は終了いたしましたので、ここで進行を事務局に交代したいと思います。

【事務局】 外井座長、議事の進行大変ありがとうございました。また委員の方々には貴重なご意見をいただきまして重ねてお礼申し上げます。

続きまして検討小委員会の今後の開催等ということで、事務局のほうからご連絡を差し上げたいと思います。

【事務局】 今後はキックオフレポートを策定してまいりますので、それにつきましても現在、プレ協議会でまとめるための議論を進めつつあります。また一方では、ほかの検討小委員会におきましても中間レポートをまとめているところでございます。これらの検討結果につきましては、委員会としましては最終ということですが、委員会としては今後も継続してまいります。特にプレ協議会で特段の計画策定作業について当委員会等に要請がございましたら、再度ご協力をお願いする場合もあるかもしれません。そういったことで、今後につきましてもご協力をよろしくお願いいたしたいと思います。また、キックオフレポートにつきましては、取りまとめができましたら委員の皆様方にもご報告をしていきたいと考えております。

また、本日は最後に副局長の小池がごあいさつする予定でございましたが、所用のためどうしても出席できないということでございました。本日はほんとうに委員の先生の皆様方にお褒めの言葉までいただきまして、事務局員一同、ほんとうに厚く感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

【事務局】 これをもちまして、九州圏広域地方計画プレ協議会第5回活力ある経済社会を目指す検討小委員会を閉会させていただきます。

本日はまことにありがとうございました。

了